

<h1>音楽とは 横への感性なり!</h1>	合唱団ホームページアドレス <a href="https://www.wiengifu.org">https://www.wiengifu.org</a>	<b>11月号</b>
	2022年11月1日 編集・発行 ウィーン岐阜合唱団	

まち                      ごと                      おとたの

## 岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し 作:音楽総監督 平光保

「マスクをしてもハモれるウィーン岐阜合唱団」      岐阜・テノール 清水克時

2022/09/23 サラマンカホールで行われた演奏会は大成功でした。700席のホールに約360名のお客さまをお迎えして、最高の演奏ができました。

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、2020年に入って世界中で感染が拡大しました。2020年3月になり、WHOがパンデミックであるという宣言をした直後に、岐阜県内の合唱団にクラスターが発生したため、合唱は肩身が狭くなりました。合唱練習につかわせていただいている長森コミセンからの要請もあり、しばらく休団することになりました。社会活動を再開するための基準がさだまらず、感染症に対する団員の考えもさまざま、さらに団員の家族や職場の事情も加わって、合唱の活動を続けられなくなる人が続出しました。モーツァルトの「戴冠ミサ」を予定していた2020年夏の演奏会は中止。臼井団長はじめとするスタッフのご努力下、2020年7月から10月にかけて、おそろおそろ練習が再開されました。手洗い、消毒、検温や、マスク、一人一人の間隔を開ける、全体練習を少なくするという対策をとりました。特にマスクは発声に大きく影響するので、はじめはとまどいしましたが、平光先生、伴和子先生、伊藤応子先生の熱心なご指導で。だんだんとマスクに負けないで声が出せるようになりました。

そもそもマスクについては、ウイルスは小さすぎて遮蔽できないと、効果を疑う考えもあったのですが、今では、その効果は疫学的データにも裏付けられています。マスクの受け入れにはその集団の文化が影響します。私たちの第23回定期演奏会の前後に行われた、英国と日本、2つの国葬の様子はテレビでご覧になったかと思いますが、参列者のマスク着用状況の違いは対照的でした。

国名	ロックダウン	ワクチン 必要回数接種 完了率 65%	ワクチン 1回接種率 80%	マスク 着用	人口100万人当 たりの死者数 (2022年3月1日時点)
イギリス	○	○	×	×→△	2,376
イスラエル	○	○	×	×→△	1,113
アメリカ	○	○	×	×→△	2,973
シンガポール	○	○	○	×→○	193
ロシア	○	×	×	×→△	2,474
日本	×	○	○	○	208

ここに宮坂昌之著 「新型コロナの不安に答える」

(講談社現代新書 2022年)のマスクの効果を裏付けるデータを示す表があります。イギリス、イスラエル、アメリカ、シンガポール、ロシア、日本の6か国について、①ロックダウン実施の有無、②国民のワクチン接種の進捗状況、③マスク着用の度合い、その結果として人口100万人当たりの死者数が比較されています。

①②③のすべてを実施できたシンガポールで、

もっとも死者数が少なかったのは当然として、ロックダウンはできなかったけれど高いマスク装着率を示した日本がシンガポールにせまる第2位であったことは注目に値します。

日本以外の5か国ではロックダウンはしたものの、マスクが受け入れられなかった4か国ではシンガポールや日本と比べて、一桁多い死亡者が出ています。(表参照)

演奏会当日、伴真由子先生の本番前練習、伊藤応子先生には楽器を会場にまではこんでいただき豪華なピアノ伴奏によるラジオ体操をしていただいたこと、そして会場が響きの良いサラマンカホールであったことにもよりますが、2021年のNewYearコンサートそして今回の第23回定期演奏会、2つの演奏会を経験して、ウィーン岐阜合唱団はマスクをしてもハモれる合唱団に成長しました。練習で感染者が出ることもなく、念願の「戴冠ミサ」は全曲歌えました。

## 「うつくしいもの」

岐阜・ソプラノ

河田容子

高校の現代国語の授業の時間、ひとつのページから目が動かなくなった。当てられた同級生が次のページへ読み進んでも、ずっとそのページを見たまま、総毛立って文字どおり固まっていた。これは?!これは私!八木重吉の詩「うつくしいもの」、その詩を見た時だった。中学生の時にも同じ状態になったことがある。あれは夏目漱石の小説「こころ」の授業の時だ。Kが命と引き換えにしたお嬢さんへの愛を、何度頭を捻って考えても理解できなかった時。あの時は驚異のあまりそうなったのだが、今回は吹き飛びそうな強い衝撃を受けて固まってしまった。10代の青少年が皆そうであるように、私はいつも真実と理想を探していて、その探し続けたものが文字となって目の前にあることへの衝撃だった。幼い頃、よく空想で遊ぶ子供だった私は、中学校の同窓会で担任の先生に「君はホントに天然(天然ボケ。天性のボケた性分)だったね」言われたほど空想と現実の境がなく、校則厳守で聞き分けも良くて言い付けを守る模範生だと思い込んでいた私は、先生の言葉に苦笑いした。また、大学を卒業する頃まで時々白昼夢を見た。小説を読んだり絵を見たり音楽を聴いたりした時に、心の線とそれらがぴったり合うと目の前の物が全部その世界に変わってしまうのだ。形も色も音もその世界になり、その世界の中に立つ自分がある。白昼夢を見る時はそんな状態になる。幽霊を見たと言う人もきっと白昼夢状態だったのだろうと思い、全く信じていない。白昼夢が一番強かった10代後半は、寝転んで小説を読んでいると周りが全て草原になったり、ショッピングセンター内のBGMを聞いて店内が全部、宇宙空間になったこともある。白昼夢のように現実の世界を塗り替えてしまうもの、心の線とぴったり合って総毛立つもの、固まるもの。これが私の、真実、理想、であり、「うつくしいもの」なのだ。

合唱団で練習をしていると感動することがある。ドッペルファーガや戴冠ミサを歌いながら、どうしてこんなに素晴らしいのか、神のなせる業かと感動する。でも、「うつくしいもの」に会ったことはない。DVDを流しても、コンサートに通っても満たされない。もどかしい。イライラする。まるで真実と理想を探していた10代の頃のように。だからこの合唱団にいるのかもしれない。

「うつくしいもの」に会えるまで歌い続けるために。

## 私の習い事 (2)

岐阜・バリトン

辻 精二

## ②謡曲のこと

45歳、京都の能楽師が大学の同級生（三田洞）のお寺で謡曲教室を始められたご縁がありました。何かたしなみを持つべきと助言もあり、やみくもに飛び込みました。

能は室町時代、世阿弥、観阿弥達が作り上げた総合芸術と言われていています。能にはシテ方五流と呼ばれる、観世流、宝生流、金春流、金剛流、喜多流があり、能のシテ（主人公）を演ずる流派です。ワキを演ずる流派、狂言を演ずる流派、お囃子を演ずる流派があります。

素謡は能を志す者が最初に取り組みもので、次に取り組み仕舞（謡いながら舞う）と共に必須科目です。今では謡曲として市民権を持ち独自に演ぜられることが多くなりました。

又狂言も同様で、能の幕間に間狂言（あいきょうげん）として演ぜられるもので、お囃子方（笛、鼓、太鼓）と共に能の一部ですが、現在では独自の演目も多くなっています。

500年以上も前に作られた能は門外不出とされ口伝で伝承、大正年間になって初めて観世流から教本が出ました。昭和になって謡い方の記号が追加され、習いやすくなりました。しかし音楽の楽譜に比べると情報量がずっと少なく、師匠の教えで伝わる、口伝が無ければとても謡えません。謡曲の本には追い書きが行間を埋め、自分独特の教本となっています。平光先生が良く言われる「最後には楽譜を離れよ」とは謡にも通ずる名言だと思います。

謡曲の師匠は最初に、正座して腹から大声を出す事、地声で良いから障子が鳴る位の声を出して謡えと指導されました。師は腹筋の鍛錬を日頃から欠かさず、弟子達にも奨励していました。私も長い修行で、一日中でも謡える、自分の声（うたいごえ）を持ちました。

ある宴席で師匠の長兄（有名な能楽師）から、若い頃小唄が好きで密かに通っていたが練習中に、親父に「それは小唄」だとかっぴどく叱られた事がある。それ以来カラオケも自分には禁じている。と話され、弟子で音楽へ向かった人もあるが、喉で謡っている内は良いが、本格的に始めると、どちらも上手くゆかなくなると忠告がありました。大変重い言葉でした。

素謡では、道行（歩いて行く）の様に拍子に合わせて謡う（拍子合）、掛け合い（会話）



の様に阿吽の呼吸で謡う（拍子合わず）から成っています。能を始め、仕舞、番囃子、舞囃子等のアンサンブルでは全部ではありませんが8拍子と言われる拍子で謡います。

素謡は、シテ、ワキ、ツレ等の役を演ずる者が前列に座り、後列に地謡（バックコーラス）が地頭（じがしら）を中心に座ります。全ての合図は地頭から発せられます。地謡は地頭が謡って、それに皆が合わせます。平光先生が良く言われる「遅出の早じまい」

こそ地謡のメンバーが一つになる為の極意です。

最近、正座が出来なくなり、観世会館の舞台には出にくくなりました。舞台上で椅子を使う方も増えましたが、正座して発する声とは違う様です。

年と共に残念ながら謡から少しずつ離れていますが、昔から続けている謡曲同好会の方々（30名位）で作る春、秋の素謡会には、今後も欠かさず参加しようと思っています。

本年11月には第100回目数えます、記念の素謡会を行います。

（次号に続く）

## 11月～1月の練習予定

## ♪～準備が先、声は後～♪

平日 (18:30～20:30)		日曜 (14:00～16:00)
岐阜 長森コミュニティーセンター	大垣 大垣市南地区センター	各務原 ときめきホール
11月 3日 (木)	11月4日(金) ※ 中川地区センター	11月 6日 (日)
11月 10日 (木) 北部CC	11月 11日 (金)	11月 13日 (日)
11月 17日 (木)	11月 18日 (金)	11月 20日 (日)
11月 24日 (木)	11月 25日 (金)	11月 27日 (日)
12月 1日 (木)	12月 2日 (金)	12月 4日 (日)
12月 8日 (木)	12月 9日 (金)	12月 11日 (日)
12月 15日 (木)	12月 16日 (金)	12月 18日 (日)
12月 22日 (木)	12月 23日 (金)	12月 25日 (日)
1月 5日 (木)	1月 6日 (金)	1月 8日 (日)
1月 12日 (木)	1月 13日 (金)	1月 15日 (日)
1月 19日 (木)	1月 20日 (金)	1月 22日 (日)
1月 26日 (木)	1月 27日 (金)	1月 29日 (日)

※ 中川地区センター (大垣市中川町4-150) 0584-75-2575

## 紅葉ツアーに参加して(1)

大垣・アルト(岡崎和子、岡野久子、小林真紀子)、ソプラノ(西村悦子)

この度の10/23～10/24の一泊二日の紅葉ツアーに大垣教室の仲間と参加しました。合唱団員と団員以外の皆さまとの合計27名がバスに乗って一日目の行き先新穂高へと向かいました。

美しく色づいた木々の間を走り抜け、近づくに連れて車窓から見る山々は黄色の絨毯の様で素晴らしかったです。新穂高では2階建てロープウェイで山頂まで行き、この19日にリニューアルオープンしたばかりの展望デッキ「槍の回廊」から眺めました。そこからは北アルプスの山々が一望でき、大自然の素晴らしさを



を身体(からだ)全体で感じる事が出来ました。宿となるペンション「マドンナ」に着く前には温泉にもゆったりと入ることが出来ました。夕食前のコンサートでは平光先生のピアノ伴奏で伴和子先生の独唱で素敵な歌を聴かせていただきました。夕食後は参加された方のピアノ演奏や歌もありました。コンサートの終わりには、合唱団の仲間が愛唱歌集の中から数曲選んで歌いました。そこで高音・低音のパート別に分かれてハーモニーの美しさを味わい、楽しい一時を過ごしました。こうして一日目が終わりましたが、二日目については12月号で触れます。

広報より 皆様からのご意見・ご投稿をお待ちしております。ご投稿・ご質問等は下記までお問い合わせ下さい。

坂井 俊郎 mail: [sakai\\_gifu@yahoo.co.jp](mailto:sakai_gifu@yahoo.co.jp) 090-7041-9133

高橋なお子 mail: [wien.chorus@gmail.com](mailto:wien.chorus@gmail.com) 090-9933-0374

